

## 平成28年度 大阪市社会教育委員会議 第2回全体会 議事録

1 日 時 平成28年8月29日（月） 午前11時～12時30分

2 場 所 大阪市役所 屋上会議室

3 出席者

（委員）

木原委員・神部委員・木戸委員・小林委員・長谷部委員・久委員・弘本委員  
森下委員・柳本委員・吉岡委員

（教育委員会事務局・区役所）

山本教育長、榊淀川区長兼教育委員会事務局淀川区担当教育次長  
松本生涯学習部長兼市立中央図書館長、大久保市立中央図書館副館長  
松村生涯学習担当課長、植木文化財保護課長、向生涯学習担当課長代理  
玉置社会教育施設担当課長代理、今西区役所人権生涯学習主管課長会代表

（こども青少年局）

杉谷青少年課長

4 議事概要

（1）開会

（2）あいさつ

（3）出席委員・出席関係職員紹介

（4）議案

第3次「生涯学習大阪計画」の素案について

（5）報告

- ・社会教育委員の異動について
- ・社会教育関係職員名簿について
- ・骨子案についての意見について

## 5 議事要旨

事務局から、各議題について報告し、確認された。

[主な意見等について]

(第3次「生涯学習大阪計画」の素案について)

### 【久議長】

本日は、今後の施策展開に非常に大きな方針を示している3章を重点的に議論したいと思います。

### 【神部委員】

「ひととまなびをつなぐ」ところの文章が、あまりにもピンポイント過ぎるのではないかと思います。こういう世帯を限定とした施策を行うのであれば、今度は成果指標が一般論過ぎて、全然マッチしていません。しかし、学びたくても学べない人たちは、他にもたくさんいますので、学習の阻害要因を取り除きながら、全ての人に学びを届けるべきであるということが、きちんと書かれている必要がある。

その上で、特に大阪市においては、こういった世帯の増加と社会的な孤立が非常に重要な課題なので、学びを通して社会とのつながりを維持していくような取り組みを進めていく必要があるという流れであれば分かります。

横断的な家庭教育支援ということが書かれているのですが、横断的ということに対して、縦断的な家庭教育支援も非常に重要だと思います。つまり、発達段階に合わせた子育て支援、家庭教育支援が、非常に重要です。特に、一人っ子が非常に多くなってくるなかで、何年子育てをしても、子育てのベテランはいません。子どもと親との関係というのは、その発達段階に合わせて変化していくもので、常に子育ての初心者だということを見ると、今の子育て支援施策の中心は、どうしても乳幼児期の子どもをお母さん方に集中してしまっていて、思春期の子どもを持つ親に対する支援が非常に弱いという感想を持っています。

そういう意味では、横断的ということに対して、縦断的な家庭教育支援ということで、発達段階に合わせた子育て支援ということができているのかどうか、すべきかどうか、そういう視点から、家庭教育支援を見直してほしいと思います。

一方で、同じ悩みを持ったお母さん同士の子育てネットワーク支援も重要です。また、

父親の家庭教育参加を考えるのであれば、妊娠期からの家庭教育支援が非常に重要だと考えています。特に、妊娠期における夫の学びの状況が、出産後の父親の子育て参加に非常に密接に関係しているというデータもたくさん出ています。東大阪では、母子手帳に対して父子手帳を作成している例もありますし、父親が父親としての意識を高めていくような取り組みも検討してほしいと思います。

あと、「ひととまなびをつなぐ」と言っているのに、学びのことしか書いてない。本来、つなぐということ言えば、学習情報をどれだけ必要な人に届けるのかということが、重要です。そういう意味では、学習情報相談の充実ということをしかりと項目として挙げて書き込んでほしいと思います。

#### 【久議長】

先日、先進事例の紹介および参加者で学び合う機会である「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」に参加して、こういった取り組みは、これからの教育委員会のあり方の一つかなと思いました。お互いが学び合う交流の機会や情報公開の機会を充実し、学び合いの中でお互いがいろいろヒントを得ていくというような取り組みも、第4章にかかわることだと思いましたが、必要だと思いました。

#### 【社納委員】

私は、総合型スポーツクラブや学校開放事業など、いろいろ携わっているのですが、やはり予算の問題は大きいと感じております。

#### 【久議長】

八尾市も地域活動協議会と同じように、小学校区まちづくり協議会が立ち上がっているのですが、そこで非常に人気なところの一つに、山本小学校区があります。山本小学校区の事業報告のスライドに、「金があれば金に頼る。金がなければ人、知恵に頼る」という文章がありました。つまりお金があれば、例えば、講師を呼べたり、施設を借りられたりしますが、お金がないときはやっぱり、いろんな形で工面する必要がある。具体的に2点ほどお話しします。

枚方市の菅原東コミュニティ協議会は、地域の拠点にみんなが交流できるような場をつくっていて、毎日、誰かがいて、ぶらっと来て話ができるようになっています。その

場所を作ったことによって、いろんな人材が見つかってきたという話がありまして、その中に、生涯学習にかかわる話が出ました。海外経験が非常に多くて、いろんな海外の話をしたというリタイアした方が、海外事情の講座を開くことができたのです。

各校区にもさまざまな知恵や知識、情報を持つ方がいて、そういう方にうまく生涯学習講座などにかかわっていただければ、講師として、ボランティアとして参画していただくことができます。そういった情報を、みんなが共有できていれば、講師料をかけなくても講座が展開できます。

また、総合型地域スポーツクラブが資金的に苦勞されているのは、本来、クラブの会費を取って運営をすることになっているのですが、今まで無料講座に慣れてしまっていて、お金を払ってまで一緒に運営をやっていこうという方がなかなかいない現実があるかと思います。そういう意味では、やはり地域での団体育成や資金援助などの風土、土壌を、生涯学習の力で醸成していくということが必要ではないかと思います。

#### 【弘本委員】

生涯学習活動というのは、まず一つ、講座を受講するという耕す学習で、二つ目が、生涯学習に主体的に参加しかかわる学習で、次が、他者に教えていくつくる学習、この3段階で相互循環しています。3つのスタイルがあるということ自体は、そのとおりで、最近では、最初から、教えるということにチャレンジしたり、参加したりすることからスタートをしていったほうが確実に学びの効果というのが高いという知見も結構出てきているのではないかと思います。

「ひととまちをつなぐ」をテーマにするのであれば、現場の実践の中で、どれだけ人が社会に参画できるかや、学び合いというような学びのスタイルをめざしているというニュアンスが、書きぶりとしてももう少し前に出てきてもいいのではないかと思います。

そうしないと、生涯学習というと、テーブルを並べて、みんなを受講して、その受講者の数を数えて成果がありましたというような指標を作るということに終わってしまう気がします。もう少しアウトカムを発見・把握していくためには、生涯学習活動のあり方そのものを、少し見方を変えていくという視点を、共有していくほうがいいのではないかと思います。

### 【久議長】

実際に、もうすでに地域活動をされている方、実践されている方の学び直しの機会をたくさん作っていただきたいと思います。社会の状況がかなり変わってきていますので、ストレートに言うと、40年前、50年前の経験で地域活動をすると、少し問題があるかなという部分もあるので、社会の動向をきちんと見据えながら、新しい社会に向かっの地域活動の展開ということも必要ではないかと思っています。全ての職種、全ての活動の担い手に、もっと今の動向を理解をしていただいて変えていくということが重要です。

### 【弘本委員】

「ひととまちとまなびをつなぐ」部分で、外国人の世帯のことについて触れていくべきかなと思います。

### 【久議長】

私、市民活動の助成金の審査をしているのですが、やはりその中でも、ニューカマーを中心とした外国人に対する支援をしているNPOさんが活動助成を求めてこられます。

私、いろいろなところで、市が市民活動へ助成をする審査をさせてもらっていますが、大阪市に初めて参加して、大阪市ならではの課題を解決しようとしているNPOが非常に多いなと思いました。貧困家庭の学びの場をつくっているNPOも、いくつも手を挙げていました。それが、やはり大阪市ならではのだと思いますが、本来は、市の委託事業としてやってほしいという事業がいくつもあります。教育委員会や市が地域とタイアップしながら、予算をつけて実施していく事業をどんどん廃止してきた結果、その資金の提供先として市民活動助成があるのではないかと推測しておりまして、こういう市民活動を対して、市の協働事業として継続的に資金提供をしていただく必要があるのではないかと思います。

実際に、西淀川区でお手伝いをさせていただいたときには、西淀川区はかなり校区単位で、外国人の方々への日本語教育の支援をされていると思いました。

### 【木原委員】

学校の目線からこの文書を見たときに、22ページの「ひととまちをつなぐ」におい

て、意見具申を作成していたプロセスから発展して、今、チームとしての学校という概念が、学校のあり方においては成熟していて、その文言が全然出てこないのは、おかしいのではないかと思います。つまり社会教育側から言えば教育コミュニティということは、学校教育側から言えばチームとしての学校ということと連動しているので、両方からこの問題に迫っているということを記したほうが良いと思います。

もう一つは、地域への愛着の醸成というのにおいて、やはり、これも学校側から言うと、そういうことに応じたカリキュラムを策定し運用しているということが重要になってくると思います。どういう内容をどういう教材でという点まで踏み込まなくてもいいとは思いますが、やはりカリキュラムという言葉が必要な気がします。

エの生涯学習関連施設の活用というのは、単に施設の名前がリストアップされているだけなので、これらの施設が新しい生涯学習計画に基づいて、どんな事業展開、あるいは活動を実施するのかが重要ではないかと思います。

#### 【事務局】

生涯学習関連施設について、各施設とも全てチェックしたわけではありませんが、いずれにせよ、単館というのは、その施設だけで全て完結するという考え方で事業を展開しているわけではないと考えています。ネットワークについては、ICTも含めて、市民に対する情報提供については、これまでも行っていますが、事業面でどんな連携が図れるか、あるいはどんな連携が必要かというところについては、今後の検討課題かなと考えております。

#### 【久議長】

各市町村で作っている公共施設の再編計画の内容は、不十分ではないかと感じています。老朽した建物を建てかえるか否かということが重点的に書かれている計画が多いのですが、そうではなく、公共施設の再編計画ですから、経費のかかるセンターを集約・複合化していくことが、本来の目的ではないかと思っています。そのとき既得権益を奪われることがあるので、どうしても自分たちが都合よく使えるセンターを残してほしいという話になりますので、使い回しができるタイムシェアなどの体制づくりが必要です。それぞれの施設のあり方、運用・運営の仕方に、総合化・複合化という視点がないと、共有ということが図りづらいと思っています。

さらに言えば、民間施設も会議室や体育館をお持ちですので、民間がお持ちの施設を区役所の力も借りながら、生涯学習施設として共有させていただくと、よりおもしろい展開ができてくるのかなと思います。時間がかかるとしますので、その頭出しぐらいは、ここ数年でできたらなと期待しています。

それから、いろんなところで、最近、質問が増えてきたのが、コミュニティスクールに関する話です。文部科学省がコミュニティスクール化をしていこうと言い出しているのです。質問が増えるのです。私はいつも、今までも地域協議会、学校と地域の協議会でやってきましたと答えています。そういう形式張った話ではなくて、地域が地域の学校を運営するということです。私たちの地域の学校であるという認識で、一緒に運営をする。それも、一方的に学校に要望をするのではなくて、地域も一緒に学校を運営するんだというような形の協議会ができて、本来のコミュニティスクールがどんどん増えていけばうれしいなと思います。そこに、学校の先生だけに任せ切らない、地域の方々が積極的に地域の学校教育にも携わっていただけるような、そんな機会づくりのスタートを切れるような生涯学習計画の内容になればなと、期待をしております。

#### 【森下委員】

私は学校教育に携わっておりましたので、人とまちをつなぐ拠点は、小学校や中学校、特に小学校校区が中心になるのではないかと考えています。もう既に、小学校に地域の人が来て、子どもたちにかかわったり、また、子どもたちが地域に出かけて学んだりということの交流はしていますので、人がつながっている地域は、もう随分あります。実際に、そこをどんどんと広げている学校と、なかなかそういう状態になりにくい学校と格差的なものが見えてきているように思います。人とまちをつなぐ地域コミュニティづくりを進めていく先進的な取り組みをもっと広げていく必要があります。

地域が動こうと思っても、学校が動かなければ、なかなか進んでいかないので、学校の管理職の意識変革が重要です。今、学校が大変忙しいので、とにかくできるだけ新しいことやしんどいことはやめておき、目の前のことを解決していこうというような雰囲気になりがちです。学校の管理職や先生方が新しい時代を見据えて、チャレンジしていただけるように支援していけば、地域コミュニティがもっと変わってくると思います。

学校教育と関連するような施策がたくさん行われていますが、本当に効果があるのかということを見直す必要があると思います。例えば、学校図書館に週1回、司書のような

な形で来ていただいていることについて、学校現場に意見を聞いてみると、週1回でも来てくれたら助かるという学校と、週1回だったらそれほど効果はないという学校がありました。本来であれば、学校司書さんがいれば充実するのですが、なかなか難しいので、もう一度、現場の声を聞きながら再検討していくことが重要であると思います。

また、学校元気アップ事業についても、支援員は子どもの相手をしてくれるけど、子どもたちの学びの支援がきちんとできているかはわからないという声も聞きます。そういった意味で、もう1度、こういう事業を見直していくというもの大事なのかなと思っています。

#### 【久議長】

協働は、他の人と一緒にパートナーシップを組まないといけない、話し合いもしないといけないし、お互いに顔を売り合わないといけないなど、大変なことがたくさんあります。手間もかかるし、時間もかかるのですが、その後に喜びとか、今までとは違う動き方があるので、その一線を越える手間・苦労は、いとわないでほしいと思います。

#### 【柳本委員】

今、学校の管理職の先生方の変革ということで言われていましたが、私たちも今、現場にいまして、学校の先生方と話をする機会が多いのですが、やはり、今、先生方も少しずつ変わってきているなど、私は思っております。子どもたちと一緒に何かしていただけないかということ、先生方から言ってきてくださるので、私たちはとてもいい方向に向かっているのではないかと考えております。

#### 【木戸委員】

I C Tの利活用について、もう既に、大阪市では生涯学習だけではなくて、幅広くI C Tの利活用をされています。I C Tは、幅広い可能性を秘めているということで、これからますます多様なニーズに対応するため、どこまで企業が行政とタイアップができるのかというのは、今後の検討になると思います。

#### 【久議長】

私も労働組合側のお手伝いもずっとさせていただいていく経験の中で、どうしても事



業者とパートナーを結ぶということになってくると、会社本体とどう連携するかという観点になりがちですが、実は、労働組合の組合員というのは、そういう会社の従業員の組織団体ですので、かなりスキル、ノウハウを持っている方もたくさんおられます。そういう意味では、労働組合の方々のパートナーシップの結び方というのを工夫していただくと、いろいろまた地域にないスキル、ノウハウを持った方々との連携というのが、もっと充実していくのかなと思います。

#### 【小林委員】

コミュニティスクールの最先端というのは京都市で、とても熱心です

コミュニティづくりの中で、学校は非常に大事ですが、やはり統廃合の関係で、地域コミュニティが若干崩れている、お祭り事がどんどん消えているなど、非常に危惧しております。

昨夜、生涯学習大阪計画施策体系の中の、リカレント教育、職業教育の充実の施策である「女性のための起業支援事業」に参加しました。大阪市のいろいろな事業に参加すれば、大阪市も捨てたものではないと思います。学校図書館も大分変わってきており、ICTも進んでいますので、少しずつ、大阪市が変わってきているのは間違いないと思います。

#### 【吉岡委員】

大量の団塊の世代の方が65歳になって、地域にはすばらしいノウハウを持った人材が、たくさん眠っているのではないかと思います。こういった人材をどう発掘していくのか、フィードバックさせるための手段をどうしていくのかを、この素案の中に書いていけないかと思いました。今あるものでどのように工夫していくのかという視点からのアプローチをしてほしいと思います。

#### 【久議長】

大阪市教育委員会の事業である、はぐくみネットのコーディネーターに対する支援のなかで、地域で井戸端会議を立ち上げてみませんかという取組みを、ここ数年やっています。数年前、東住吉の今川小学校のはぐくみネットに呼んでいただいたときに、非常にエピソード的なことがありました。というのは、その井戸端会議というのは、いろん

な話を自由にしていこうよという場なので、その中で、町会長さんが、「わし、最近、そば打ちをしてるけども、うちの家内、食べてくれないねん」という話が出てきました。私の隣にはぐくみネットのコーディネーターが座っていて、「えっ、会長、そば打ちやっているって初めて聞いたよね」という話になって、今度の土曜授業のときに会長に来てもらい、子どもたちにそば打ち教えてもらおうという話になりました。

いつも顔を合わせていても、会長さんも、そば打ちが趣味だと言う機会がないのです。何げない発言の中に、「この人、こんなノウハウを持ってるんだ」ということが出てくる場合がありますが、それを出していけるのがおそらく井戸端会議のような、気軽な情報交換場所ではないのかなと思います。

そういう一見、役に立ちそうでない会議で、人材を見つけられたり、ネットワークが生まれたりという展開が、大阪市内でもいくつかできていますので、そんな機会を、生涯学習を通じてつくっていくのも、一つのやり方ではないかと思います。

それを今までのように、すべての小学校で実施するのではなく、「やってみませんか」という呼びかけを教育委員会からして、「やりたい」というところに、重点的に支援をして、立ち上げを一緒に行います。そして、うまく運営できるようになれば、地域に任せてまた別のところを支援するといった展開を、実際に、はぐくみネットでも行っています。

あと、今までは地域がやりたくないのにやってくださいと行って実施していた事業がいくつもあると思いますので、地域の自主性を重んじるような支援が、今後ますます増えていけばうれしいな思います。

#### 【弘本委員】

例えば、オリンピック、パラリンピック、ワールドカップや、訪日外国人が増えていることについて、そういった動きをどう計画に盛り込むのか、盛り込まないかというところも、議論が必要ではないかと思いました。

まちづくりとの関係で言うと、例えば、大阪市立大学と市の施設が連携して、オープンナガヤという取り組みをこの数年間ずっと実施しています。いろんな地域で、長屋を公開して、長屋活用に多くの人々が参画できるように、しかもそれを耐震性も考慮した安全性の高いものとして実施していくような取り組みも広がってきています。オープンナガヤスクールも、各地で行っており、まちづくりと連携した学習活動は確実に増えてき

ています。去年、大正区では、リノベーションによって古きを活用してまちを元気にしていこうという「まちづくりキャンプ」を行っており、効果を上げています。そういったことも書き込んでもいいのではないかと思います。

#### 【久議長】

女子サッカー、ワールドカップのとき、当時の宮間キャプテンがおっしゃった言葉が、「にわかファンがたくさんいるけれども、次の年からお金を払って見てくれる、本来の意味でのファンになってくださるといいのにな」という話がありました。オリンピックも、にわかファンがたくさんいるのですが、これが継続的にスポーツ振興とか、生涯学習に生かせるかどうかということが、これからの勝負ではないかと思っています。そういうニュアンスも含めながら書くと、おそらく、そのトピックスが将来の大阪の生涯学習にどう生かせるかということへつながるストーリーにできるのではないかと思いますので、事務局で検討していただきたいと思っています。

#### 【神部委員】

「人とまちをつなぐ」というところが、コミュニティスクールへの対応や、学校と地域の協働といった視点が中心になってしまう。子どもたちを豊かに育てていくコミュニティづくりは重要ですが、それを支える人が育っていないということも、あわせて考えておく必要があると思います。熱心な人は一生懸命かかわってくれるんだけど、そうでない人は無関心で何もやってくれないという、二分化です。

地域に関心を持って、地域の活動を担ってくれる人づくりというところから始めていかないと、結局、持続可能な地域づくりは無理だと思います。そういう意味では、コミュニティに参加していない層の社会参加の促進はとても重要な項目なのに、たった2行で話が終わっている上に、内容が「地域活動についてホームページや生涯学習関連施設での情報発信を行います」となっています。そんなことで、コミュニティに参加しない層が参加してくると思わないです。もっと、ここをしっかりと考えていかなければ、人とまちをつなぐことは無理だろうと思っています。

いちょうカレッジを見せてもらいましたが、まちづくりの一つのすばらしい試みだと思っています。もう少し身近なところで、住民に地域づくりのことをもっと知ってもらって、地域をもっと自分たちの手で豊かにしていこうという思いの一環として、子どもたちを

みんなで支えていこうというようなことを、検討していただきたいと思います。

**【久議長】**

「つなぐ」ということにこだわり過ぎていて、ひと・まち・まなびという、一つ一つの部分を、もっと充実させる必要があるのかなと感じました。